

報告書

初めての国際学会参加 —Pacifichem 2025—

2025年12月、ハワイで開催された国際化学会議「The 2025 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2025)」に参加してきました。開催期間は12月15日から20日の6日間で、私はその中でポスター発表を行いました。本会議には世界各国から1万人を超える研究者が参加し、数千件もの研究発表が行われる化学分野最大級のイベントです。有機・無機・物理化学から材料科学、生命科学まで幅広い分野を網羅し、国際的な研究交流の重要な場となっています。

私は、「Enantioselective Biosynthesis of (+)- and (-)-Auranthines (*Aspergillus lentulus*)において見出された(+)-および(-)-auranthineの選択的生合成」というタイトルでポスター発表を行いました。本研究では、ニトリル基含有天然物である auranthine について研究し、*Aspergillus lentulus* の中に (-)-auranthine (1) を生産する菌株とこれまでに未発見であった (+)-auranthine (2) を生産する菌株がそれぞれ存在することを初めて発見しました。このように同種の糸状菌から株の違いによってエナンチオマーが生産される例は、世界で初めての報告例となりました。さらに auranthine がどのように生合成されているかを明らかにし、糸状菌では未だ明らかにされてなかったニトリル基生合成酵素を発見しました。

今回、初めての国際学会参加ということもあり、英語でのコミュニケーションには苦労しました。専門用語も多く、伝えたい内容をうまく説明できないこともあり、身振り手振りを交えながら必死に発表しました。準備段階では想定していなかった質問もいただき、とっさに英語で答えることの難しさを実感しましたが、同時に国際舞台での議論の大切さを学ぶことができました。本学会は非常に規模が大きく、著名な研究者の講演を直接聴くことができ、自分の研究意欲がとても高まりました。また、私と同じくニトリル基の研究をされている方との出会いもあり、長時間議論を交わす中で新たな知見や視点を得ることができました。このような研究者同士の直接的な交流が、国際学会の大きな魅力だと感じました。今回の国際学会参加を通じて、自分の研究を世界に発信することの意義を強く感じるとともに、英語でのコミュニケーション能力をもっと高めていく必要があると実感しました。この経験を糧にして、さらに研究に励み、次回はより充実した発表と議論ができるよう努力していきたいと思います。最後に、このような貴重な機会を与えてくださった指導教員の先生方、研究室の皆さん、そして学会参加を支援してくださった関係者の皆様に心より感謝いたします。

